

七島い栽培復活継承協議会

平成 25 年（2013）5 月、杵築市を含む国東半島宇佐地域は「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐地域の農林水産循環」として世界農業遺産に認定されました。

その中に受け継がれている農耕文化・景観の一つとして、国内で唯一、国東市のみで栽培が続けられている七島いが注目を集めています。

かつての杵築市は七島いの最大栽培地であり、藩の財政を支える特産品となっていました。しかし、現在の杵築市内では栽培はされていません。

身近な作物であった七島いは、くらしの中に深く浸透しており、いまだに必要とする伝統文化が数多くあります。そこで、杵築市では、平成 26 年（2014）11 月 14 日に七島い栽培復活継承協議会を発足しました。

本協議会では、杵築市における七島い栽培を復活させ、地域の若者に伝えることで生産技術を継承し、さらに加工技術の習得により地元の伝統文化や工芸品に利用することを目的としています。



設立総会

平成 26 年度の活動

2014 年（平成 26）
11 月 26 日

七島い栽培復活継承協議会設立総会。
第 1 回 全体研修会。
講演「七島い栽培や製品作りの現状について」
細田 利彦 氏（くにさき七島蘭振興会事務局長）

2015 年（平成 27）
1 月 19 日

第 1 回 活用部会 加工技術研修会。
実習「七島蘭コースター作り」
岩切 千佳 氏（くにさき七島蘭振興会認定工芸師）

27 日

第 1 回 栽培部会 実証圃場確認及び研修会。
講演「七島いの栽培技術について」
大成 忍 氏（大分県東部振興局主査）
講演「七島いに求められる品質について」
松原 正 氏（くにさき七島蘭振興会監事）

2 月 20 日

第 2 回 活用部会 加工技術研修会。
実習「七島蘭コースター・草履作り」
岩切 千佳 氏（くにさき七島蘭振興会認定工芸師）

3 月 20 日

第 3 回 活用部会 加工技術研修会。
実習「七島蘭コースター作り」
岩切 千佳 氏（くにさき七島蘭振興会認定工芸師）

31 日

『杵築七島いの歴史』発行。

栽培部会

栽培部会では、途絶えてしまった杵築市での七島い栽培を復活させ、次世代に継承することを目標としています。

平成 26 年度は、鴨川地区と出原地区の 2 地区に、それぞれ 1a の栽培展示を行う圃場ほじょうを設置し、土壤改良など栽培に向けた準備を進めています。

今回、圃場とする場所はもともと七島いを栽培していた七島田です。稲作用の田んぼよりも深く、水はけが良い、七島い栽培に適した場所を選びました。

平成 27 年度、くにさき七島藺振興会が大切に守り続けてきた七島いの苗を分けていただき、10 年ぶりに七島いの栽培を復活します。



出原地区の実証圃場



第 1 回 栽培部会 講演

活用部会

活用部会では、栽培した七島いをどう活用していくかを検討し、実践しています。

杵築市大字宮司の若宮八幡社で行われている若宮楽では七島い製のわらじ、杵築市大字相原で行われている出原の柱松では七島いの縄を使用してきました。しかし、現在は原料となる七島いが手に入りにくいいため、別の素材を使って代用しています。このように伝統文化に使用されている道具を制作し提供することを一つの目標としています。

また七島いを工芸品などに活用する方法も検討しています。そこで、くにさき七島藺振興会の工芸師を招き、七島いの加工技術を習得するための研修会を開いています。

平成 26 年度は、3 回の研修会を開き、「七島いコースター」と「七島草履」の作成体験を行いました。



第 1 回 活用部会研修会



第 2 回 活用部会研修会

参考文献

- 『大分の歴史 第5巻 小藩の分立』（大分合同新聞社 1977年11月）
『大分の歴史 第6巻 農民と一揆』（大分合同新聞社 1978年11月）
『豊の雑学 豊を理解するために』（大分県蘭業指導所 1982年3月）
『大分県史 近世篇Ⅱ』（大分県 1985年3月31日）
前田哲夫『豊後の七島い—その歴史を追って—』（1986年3月）
「大分の七島—大分県の七島生産の歴史—」（大分東明高校郷土史クラブ 1990年）
『江戸時代 人づくり風土記 44 ふるさとの人と知恵 大分』（農山漁村文化協会 1998年6月）
「七島い栽培・加工の手引き」（大分県 1998年3月）
『大分県先哲叢書 大蔵永常』（大分県教育委員会 2002年3月31日）
『豊の国のモノづくり—江戸時代の特産品—』（大分県立先哲史料館 2004年10月）
『杵築市誌 本編』（杵築市 2005年3月）
『杵築市誌 資料編』（杵築市 2005年3月）
「『世界農業遺産』クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」
(2014年7月 大分県農林水産部農林水産企画課世界農業遺産推進班)

あとがき

15年ほど前、大分県に来たばかりの私は、「七島い」という文字を見て、その存在はおろか読み方すらわかりませんでした。その後民俗学を学び、人々の暮らしを調べるうちに、これが豊表の原料となる植物であることや重要な農家の副業となっていたことを知りました。

現在、七島いの最大生産地であった杵築でも15年前の私と同じ状況になりつつあります。子ども達はもちろん、50代の人々にも七島いの記憶はほとんどありません。60代の方がかろうじて日常生活の風景の一つだった世代です。その経験ある人々にとって、七島いは作業の辛い「貧乏草」でした。

しかし、杵築が全国に誇る城下町を支えてきたのは、七島いで製作された豊後表です。そこには「貧乏草」で終わらせるには惜しい歴史と文化があります。平成9年、大分県産業科学技術センターでは、七島いを紙の原料に活かす研究が行われました。杵築にはかつて鴨川和紙という特産品がありました。双方を利用すれば、杵築の特産品が新たな形で二つも蘇るかもしれません。このように、七島いはまだ多くの可能性を秘めた作物です。この冊子が、七島いの魅力を知るきっかけとなれば幸いです。

最後に、本冊子を作製するにあたり、ご指導・ご協力いただいた皆様に、厚く御礼申し上げます。

平成27年3月 杵築市教育委員会生涯学習課

杵築七島いの歴史

平成二十七年（二〇一五）三月二三日 印刷
平成二十七年（二〇一五）三月二日 発行

発行

七島い栽培復活継承協議会

〒八七三-〇一一三

杵築市大字杵築三七七番地一

杵築市農林課世界農業遺産推進室内

TEL（代表）〇九七八-六二-三三三三

制作

七島い栽培復活継承協議会事務局

〒八七三-〇一一三

杵築市大字杵築三七七番地一

杵築市農林課世界農業遺産推進室内

TEL（代表）〇九七八-六二-三三三三